

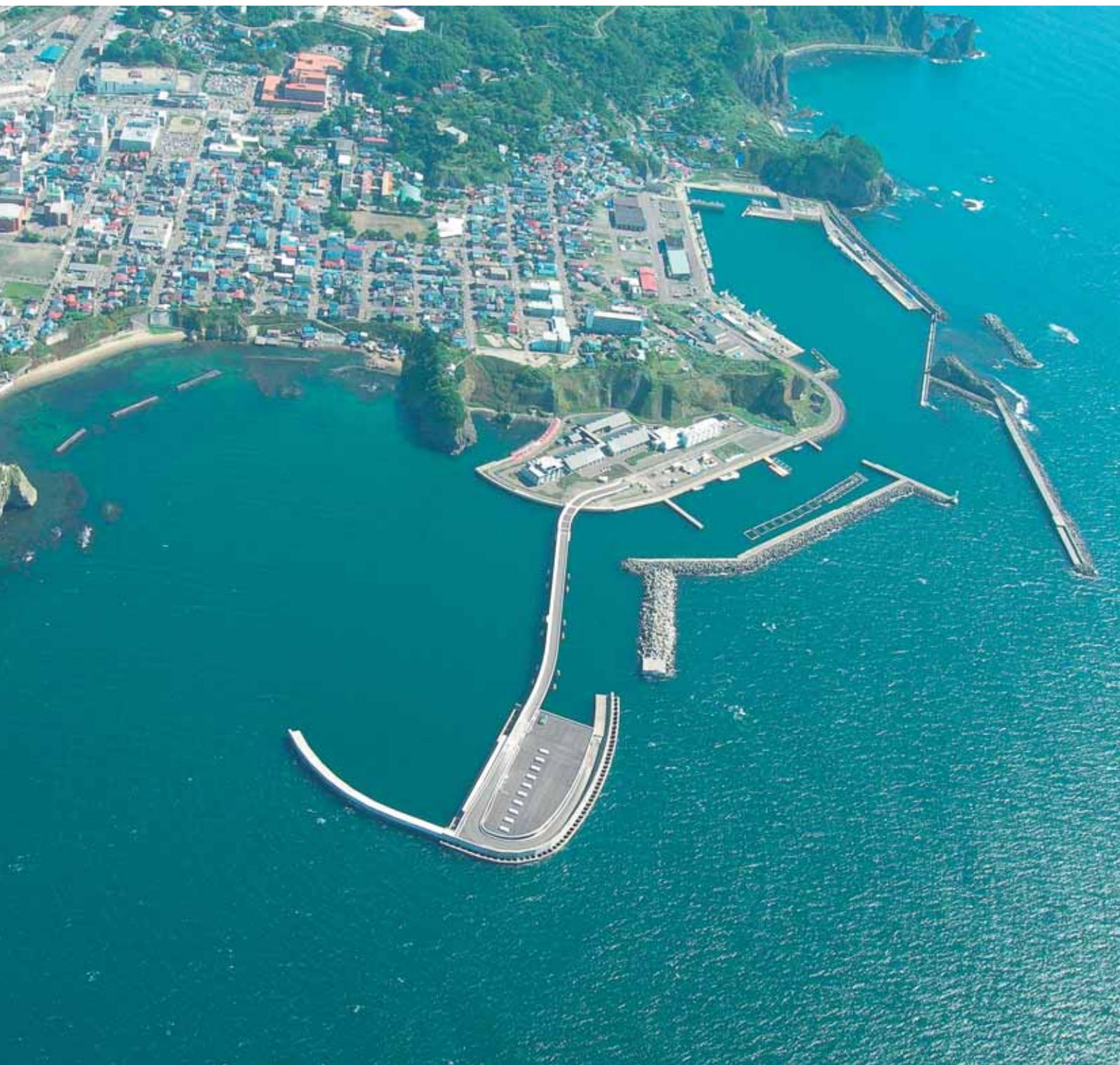
北海道港湾空港建設協会

会報

平成25年 9月

北のみなと

No.80



— 目 次 —

就任挨拶 (北海道開発局 港湾空港部長 川合 紀章) 1

Report

日本港湾空港建設協会連合会 第30回通常総会開催 3

受賞

平成25年度 北海道開発局優良工事等の表彰 4

平成25年度 北海道開発局港湾空港関係功労者表彰 8

平成25年度 各協会の表彰に関する記事 10

- ・(公社)日本港湾協会 会長賞表彰 (港湾功労者賞)
- ・日本港湾空港建設協会連合会 会長表彰
- ・(一社)日本海上起重技術協会 功労者表彰
- ・漁港漁場関係優良請負者表彰
- ・(一社)日本潜水協会会長表彰

各種記事

我が社の安全衛生管理 (榎高木組 安全環境部長 富樫 英美) 14

私の趣味「雑感～マック達とのふれあい～」 (勇建設(株) 小泉 信男) 16

Topics

イベント

石狩湾新港耐震強化岸壁供用式を開催 18

羽幌港中央ふ頭供用開始・新フェリーターミナル竣工式典を開催 18

苫小牧港開港50周年シンポジウムを開催 19

苫小牧港で「Sea級グルメ全国大会 in 苫小牧」を開催 19

追直漁港沖合人工島 (Mランド) 供用式典を開催 20

追直漁港ふれあいまつりを開催 20

大型客船等寄港

大型豪華客船「コスタ・ビクトリア」函館港に初寄港 21

海王丸、苫小牧港に15年ぶり寄港 21

釧路港へ7万トン級客船初入港 22

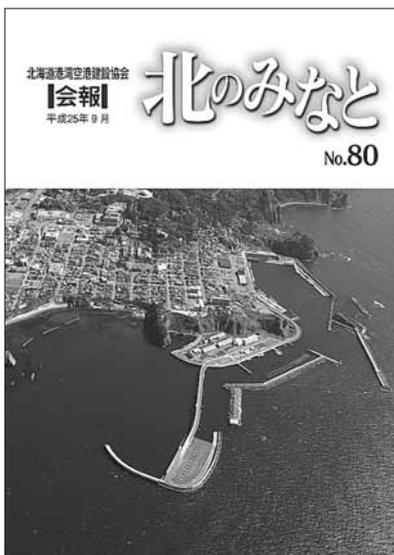
各港で船漕ぎ大会やボートレースが開催される

(釧路、苫小牧、函館、室蘭、稚内) 23

Information

業界だより 25

広報委員会だより 25



平成8年度より室蘭開発建設部、室蘭市及び室蘭漁業協同組合が整備を進めていた追直漁港沖合人工島 (通称：Mランド) が平成25年3月に完成しました。

就任挨拶

我が国に貢献する 北海道の港湾・空港



北海道開発局 港湾空港部長 **川合紀章**

はじめに

7月16日付けで、北海道開発局港湾空港部長に就任いたしました。港湾空港部は4年振りの勤務となります。北海道港湾空港建設協会並びに会員の皆様には、北海道の港湾・空港の発展に多大なご協力をいただいていることに深く感謝いたしますとともに、今後とも港湾・空港行政の推進にあたりご支援をいただけますようお願い申し上げます。

さて、私、前職は国土交通省北海道局で参事官を3年ほど勤めておりました。主な職務は北海道総合開発計画の推進というものですが、職務の執行にあたり3年間常に頭の中にあっただことは、「北海道がいかにか我が国に貢献できるか」ということでした。

もともと、北海道の開発は、北海道の発展のみならず我が国全体の発展に寄与するために進められてきました。例えば、北海道の石炭が我が国のエネルギー源であり、その搬出のため北海道の港湾が整備され、そこから搬出された石炭が我が国の高度成長を支えた時代がありました。現在においても、食や観光、環境・エネルギーの分野で、北海道は我が国に貢献できる大きなポテンシャルを持っており、それを発揮するためには港湾・空港など

の社会資本が重要な役割を果たすと考えています。

港湾・空港行政を進める上でも、港湾・空港の建設・整備を行う上でも、北海道の港湾・空港が、その地域の振興につながるだけではなく、北海道の発展、さらには我が国の発展にも寄与するというモチベーションを持つことは、重要であると考えています。逆に、そういう意識が低ければ、北海道開発に携わる我々の存在意義を問われ、予算面においても他地域との比較の中で高い地域配分を得ることが難しくなっているのが現状です。

我が国に貢献する港湾・空港

現在において、北海道の港湾・空港がどのように我が国の発展に寄与できるのかを見てみましょう。

例えば、観光についてですが、我が国政府は観光立国を打ち出し、インバウンド観光の促進を行っています。来日外国人旅行客数については、平成23年の3倍近い1,800万人を平成28年に目指す高い目標を設定しています。この目標を達成するためには、北海道が大きな役割を果たさなければいけません。良好な自然環境、冷涼な気候を求め、北海道に来る外国人観光客の数は、ここ数年全国に比べ著しい伸びを示しています。国の目標達成

に当たっては、成長著しい北海道のインバウンド観光をさらに伸ばす必要があります。

それに必要なのが、港湾・空港の整備です。空港については、冬季に多いアジアからの観光客のため、降雪時にも安定的な発着が可能なように整備を行う必要がありますし、港湾においても、増加するクルーズ旅客船に対応できる岸壁整備が必要です。

観光を例にとりましたが、北海道の港湾・空港は、我が国の政策遂行のために大きな役割を果たしています。観光分野だけでなく、エネルギーや防災の分野、あるいは最近では国境の保全といったことにも、北海道の港湾・空港は大きな役割を期待されています。

以下では、その中でも大きな役割である我が国の食料供給基地北海道を支える港湾・空港について、最近北海道開発局で進めている動きを紹介します。

食を支える北海道の港湾・空港

北海道はいうまでもなく我が国の食を支える食料供給基地ですが、そこで生産される農水産品は港湾・空港を通して北海道から遠い消費地に運ばれています。良いものを安く消費者に届けるために、港湾・空港を経由する物流の改善とともに、それに必要な施設整備が不可欠です。

そのための動きの一つに、「流通備蓄システム」の普及の動きがあり、農水産品が出来秋に集中して出荷されている現状に対し、雪氷を利用した倉庫などで出荷の平準化を図ることで、輸送コストの削減や北海道農水産品の付加価値を高めるための検討が進められています。

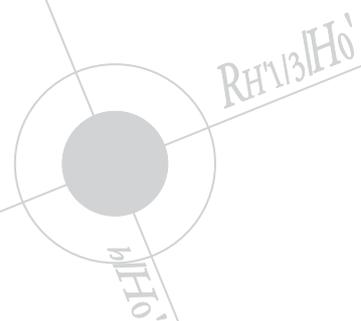
また、現在政府が農水産品の輸出額1兆円の目標を立てている中で、北海道の高品質な農水産品の輸出促進についても期待が大きく、そのために「北海道国際輸送プラットフォーム」といった施策を官民あげて推進し、港湾・空港を経由する北海道の農水産品等の輸出促進に努めているところ です。

おわりに

私ども、港湾・空港という社会資本の整備に携わるものは、その社会的使命を考えながら業務を遂行することが大切と考えています。自分たちが作る岸壁や滑走路が、地域の皆さんのお役に立つということだけでなく、我が国の発展にも貢献すると考えながら仕事をすることは、自らのモチベーションを上げることにもなると思います。

もちろん、みんながそういう意識を持ち、また、その意識を一般の方々にも伝えることは、結果的に北海道の港湾・空港の発展につながることを考えています。私は、我が国の発展に貢献する北海道の港湾・空港の役割を、常に外に向かって発信していくことを自分の大きな仕事の一つとしていこうと思っています。

貴協会並びに会員の皆様におかれましても、そういった使命をご理解いただき、北海道の港湾・空港の整備と一緒に取り組んでいくことを切にお願いして、私の挨拶とさせていただきます。



日本港湾空港建設協会連合会 第30回通常総会開催

RHH/13/H0

b/H0



日本港湾空港建設協会連合会の第30回通常総会は、平成25年5月9日に東京都の明治記念館で開催されました。開催にあたって川嶋会長から、愚直に方向を変えずに30年やってきた。人間で言えば「不惑」の40年に向け、これからの10年も信念に基づき、惑わない協会をつくりあげたいと挨拶がありました。議案は、第1号議案の理事の補充についての報告、第2号議案の平成24年度事業報告及び収支決算、第3号議案の平成25年度事業計画及び収支予算（案）について承認されました。

平成25年度 事業計画

1. 会報の発行

港湾空港関係予算・技術開発等、港湾空港関係の諸情報並びに会員の意見・要望等を掲載した会報を年4回発行し、会員相互の情報交換を行う。そのうち1回は日港連設立30周年記念号とする。

2. 研修講習会等の開催

港湾空港建設事業の社会的地位の確立と技術開発の向上を目的とした講習会及び見学会を実施する。講習会の開催は、春、秋の2回中堅技術者を対象に東地区、西地区において実施し、11月中旬に日港連設立30周年記念講演会を東京都において開催する。

3. 要望及び意見等の発信

- ①港湾空港関係予算及び港湾空港事業に係る諸課題について、関係方面及び関係機関に対して要望又は意見交換を実施する。
- ②港湾空港建設に係る当面の諸課題に関する要望や意見交換を、各地区連合会と共同して関係機関に対して実施する。
- ③都道府県協会が行う港湾空港建設に係る当面の諸課題に関する関係機関との要望や意見交換を支援、共同して実施する。

4. 調査研究

- ①港湾空港建設業の発展に関する調査研究及び資料の

収集を行う。

- ②地区連合会技術委員会の活動経費に対して補助を行う。
- ③契約、設計、積算に関する調査研究。
- ④労働、安全、税制に関する調査研究。
- ⑤建設行政に関わる調査研究。

5. 災害復旧、復興事業に対する協力及び支援

東日本大震災に関わる災害復旧、復興事業の一日も早い達成のため、全面的に協力及び支援を行う。

6. 港湾・空港プロジェクトの推進

国又は地方公共団体における港湾空港プロジェクトの発掘、推進に関して、建設業の知見から協力、支援を行う。

7. 港湾空港の整備及び振興並びに港湾工事の推進に関する広報・啓蒙活動

- ①港湾及び空港の整備及び振興並びに港湾工事の推進に関し、広く社会一般に理解を得るとともに支持されるための広報・啓蒙活動を行う。
- ②①と同様、国政の場に反映するため、国内港湾活動の実態や建設工事現場等の視察等を通じ、関係国会議員等の理解、支援を深耕する活動を展開する。

8. 日港連設立30周年記念行事の実施

日港連設立30周年にあたり、特別功労表彰、記念講演会、参禅の会、会報の記念号の発行等を行う。

平成25年度 北海道開発局 優良工事等の表彰

困難な条件下で、技術力を十分に発揮し、
極めて優秀な成績を収めた企業と技術者に対して、
局長及び部長表彰を授与

北海道開発局は7月17日、札幌第1合同庁舎で平成25年度優良工事等局長表彰の授与式を行った。平成24年度に完成した工事1,693件の中から局長表彰25件が選定され、工事を施工した30社と、その工事に携わった技術者に、関博之北海道開発局長から表彰状が授与された。

今回、当協会員が受賞した港湾・漁港工事の局長表彰は、①㈱松本組が施工した「函館漁港防波堤改良その他工事」②㈱吉本組が施工した「寿都漁港外1港建設工事」③村井・山田・白崎経常JVが施工した「釧路港島防波堤背後盛土造成工事」④堀松建設工業㈱が施工した「苫前漁港建設工事」の4件（6社）が受賞した。

開発建設部長表彰は各部で部長から表彰状が授与され、港湾・漁港工事で、①㈱森川組が施工した「久遠漁港建設工事」②萩原・道南総合・山田経常JVが施工した「白老港岸壁（-11m）建設その他工事」③岩倉建設㈱が施工した「苫小牧港西港区勇払-10m岸壁改良工事」④みらい・豊浦経常JVが施工した「苫小牧港西港区東防波堤改良工事」

⑤岩倉・葵経常JVが施工した「釧路港新西防波堤C部ケーソン製作工事」⑥拓殖工業㈱が施工した「大津漁港南防波堤工事」⑦㈱吉本組が施工した「紋別港防波堤（北波除）改良工事」⑧藤建設㈱が施工した「稚内港建設工事」の8件（11社）が受賞した。

— 港湾・空港・漁港における受賞工事 — 【北海道開発局長表彰】

○工事名：函館漁港防波堤改良その他工事

発注者：函館開発建設部

施工者：㈱松本組

技術者：堀 儀之



〔表彰理由〕

当工事は、漁船の航行に制限を与えることなく海水汚濁防止に努めるとともに、石積防波堤の修復という事例が少ないことから、施工管理及び品質管理が重要な課題でした。修復にあたっては、再使用出来ない石材が多く、新たに切出すものと織り交ぜながら施工することに加え、堤体内部構造の詳細が不明なことから、詳細な割付図を作成した上で石組みや目地の調整作業を行いました。また、工程の促進を図るため、専用に工夫した石材送出し機を使用するなど施工の効率化に取り組みました。さらに、堤体に係留された遊漁船へ石片を飛散させない防止シート、防寒囲いが倒壊しないようH鋼による足場根からみ、ブロックによる足場転倒を防止するなど安全対策に配慮しました。以上のように施工管理や品質管理に対する創意工夫及び安全対策は非常に優れており、他の工事の模範となるものでした。

○工事名：寿都漁港外1港建設工事

発注者：小樽開発建設部

施工者：㈱吉本組

技術者：三國谷 勇二



〔表彰理由〕

護岸消波部は隣接しているウニ漁場の漁業者より8月末迄の海上作業時間制限を要望されました。例年8～9月は40日程度作業が可能であるところ、例年に比べ海象状況が悪く工程の遅れが心配されました。海上作業は10月末迄が限度であることから、波浪予測と現地海象状況の合致しづらい当海域での特性を考慮し作業可能日を推定、工程の見直しを行うとともに水中作業の機械化により作業効率を向上させ工期短縮を図りました。また蓄養施設用地の埋立にあたっては、浚渫流用土（風化岩）の選別と複数の重機による軟弱土砂の圧密促進を行い、施工精度向上を図りました。以上のとおり、工程管理及び品質管理に対する意識と取組が非常に優れており、他の模範となるものでした。

○工事名：釧路港島防波堤背後盛土造成工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：村井・山田・白崎経常JV

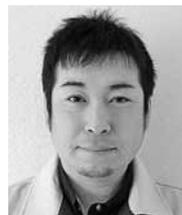
技術者：石戸谷 敦（村井建設）



風間 勝 (山田組)



三浦 義史 (白崎建設)



〔表彰理由〕

本工事は、水深-15mの大水深での防波堤建設工事であり、太平洋特有の「うねり」の影響を受け、施工の大部分が透明度の低い水中部での潜水作業でした。さらに、施工箇所は船舶の航行が頻繁な航路を横断しなければ施工できない場所でした。これらの困難な現場条件を克服し工期内に工事を完了するため、的確な施工体制で工事を行いました。施工管理では精度向上に努め品質管理に工夫をこらしました。また、積極的な地域貢献に努め、無事故で工事を完了したことは他の模範となるものでした。

○工事名：苫前漁港建設工事

発注者：留萌開発建設部

施工者：堀松建設工業(株)

技術者：花田 一仁



〔表彰理由〕

本工事は、既設防波堤を用地護岸として活用を図り、この用地護岸に接続して-2.5m物揚場を公有水面埋立により築造するもので、厳密な施工延長並びに公有水面埋立面積の管理が重要な課題でした。

-2.5m物揚場と用地護岸との接続施工に当り、施工法線計画により事前確認した結果、用地護岸の既設堤体延長が許容を超えている事が判明し、既設堤体の取り壊しが生じる事となりました。

既設堤体の取り壊しに対する工法検討の際には積極的な提案を行い、高周波モータと軽量ウェイトを用いた張力一定の切断方式のワイヤーソー工法を採用して施工を行いました。精度の高い施工延長管理を行うなど品質確保に努めました。

また、本工事は、漁船と輻輳する箇所での工事であったことから、漁業関係者と日々調整を行い、円滑な工事実施に努めました。更に地元イベントや漁港内清掃への参加、高齢者への除雪及び小学校の排雪支援を行い、苫前町より感謝状を贈呈されるなど地域社会貢献に積極的に取り組みました。以上の点を勘案し、他の模範に値する優れた工事と評価しました。

【各開発建設部表彰】

○工事名：久遠漁港建設工事

発注者：函館開発建設部

施工者：(株)森川組

技術者：坂本初幸

○工事名：白老港岸壁（-11m）建設その他工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：萩原・道南総合・山田経常JV

技術者：上野義宏（萩原建設工業）、渡部 賢（道南総合土建）、瀬戸宏育（山田組）

○工事名：苫小牧港西港区勇払-10m岸壁改良工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：岩倉建設(株)

技術者：西亦恵介

○工事名：苫小牧港西港区東防波堤改良工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：みらい・豊浦経常JV

技術者：富岡良光（みらい建設工業）、相馬桂一（豊浦建設工業）

○工事名：釧路港新西防波堤C部ケーソン製作工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：岩倉・葵経常JV

技術者：三浦洋一（岩倉建設）、西村好美（葵建設）

○工事名：大津漁港南防波堤工事

発注者：帯広開発建設部

施工者：拓殖工業(株)

技術者：西村 司

○工事名：紋別港防波堤（北波除）改良工事

発注者：網走開発建設部

施工者：(株)吉本組

技術者：及川俊博

○工事名：稚内港建設工事

発注者：稚内開発建設部

施工者：藤建設(株)

技術者：小坂昌勝

平成25年度 北海道開発局港湾空港関係 功労者表彰

北海道開発局は7月24日、札幌第1合同庁舎で本年度の港湾空港関係功労者表彰および「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」の表彰式を行った。川合港湾空港部長が受賞者一人ひとりに表彰状を授与した。

この表彰は、港湾整備事業の推進を目的として、港湾空港関係の事業等に関し、功労のあった方々を対象に実施している。

今年度の功労者表彰は、株式会社福津組（古平町）代表取締役の福津隆範氏、白崎建設株式会社（釧路市）代表取締役社長の白崎義章氏、株式会社中田組（稚内市）代表取締役社長の中田伸也氏の3人と前利尻町長田島順逸氏が受賞。また、海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動では、「さわやかな環境を守りたい（隊）」（浦河町）が受賞した。

川合港湾空港部長は表彰状授与後のあいさつで、「長年にわたり港湾空港の基盤整備や振興に尽力されてきたことに心から感謝する。港湾空港は住民の安全と安心を支え、地域の活性化に欠かせない施設、今後も協力してほしい」と榮譽をたたえるとともに、今後のさらなる活躍に期待を寄せた。



北海道港湾空港建設協会推薦
(一社) 日本海上起重技術協会北海道支部推薦



福津 隆範 氏

生年月日 昭和27年12月17日生

株式会社福津組 代表取締役

略 歴

昭和54年 4月	北海道建設工業株式会社	入社
昭和55年 4月	株式会社福津組	入社
昭和58年 4月	同上	常務取締役 就任
昭和61年 4月	同上	代表取締役 就任
		現在に至る

北海道港湾空港建設協会推薦
(一社) 日本海上起重技術協会北海道支部推薦



白崎 義章 氏

生年月日 昭和33年 1月13日生

白崎建設株式会社 代表取締役社長

略 歴

昭和55年 4月	株式会社田中組	入社	
昭和60年 4月	白崎建設株式会社	入社	
昭和62年 5月	同上	取締役社長室長	就任
平成 6年 4月	同上	取締役副社長	就任
平成11年 6月	同上	代表取締役社長	就任
		現在に至る	

北海道港湾空港建設協会推薦
(一社) 日本海上起重技術協会北海道支部推薦



中田 伸也 氏

生年月日 昭和34年 3月 4日生

株式会社中田組 代表取締役社長

略 歴

昭和63年 3月	株式会社中田組	入社	
平成 6年 5月	同上	専務取締役	就任
平成 8年 5月	同上	代表取締役社長	就任
		現在に至る	

平成25年度 (公社)日本港湾協会会長賞表彰 港湾功労者賞

RH13/H0

1/H0

永年にわたり、港湾の発展に尽くされた功績顕著な方々に贈られる港湾功労者賞が、平成25年5月22日福井県敦賀市のプラザ萬象（ばんしょう）で開催された(公社)日本港湾協会の第86回定時総会に先立ち、北海道港湾協会及び(一社)日本海上起重技術協会の推薦により当協会会員関係者が表彰されました。受賞されました皆様には、心からお慶び申し上げます。

北海道港湾協会推薦（敬称略・順不同）



東 志郎

生年月 昭和25年8月
萩原建設工業(株) 札幌支店

略 歴

昭和44年 北海道開発局
平成22年 室蘭開発建設部 苫小牧港湾事務副所長
平成23年 萩原建設(株)技術顧問
平成25年 執行役員 技術本部長
現在に至る



市来 隆

生年月 昭和25年10月
(一財)港湾空港総合技術センター

略 歴

昭和44年 北海道開発局
平成20年 網走開発建設部 網走港湾事務所長
平成21年 (財)港湾空港建設技術センター北海道支部
平成22年 北海道支部 事業第一部 調査役
現在に至る



岡崎 光信

生年月 昭和27年3月
(株)吉本組 札幌支店

略 歴

昭和45年 北海道開発局
平成23年 稚内開発建設部 次長
平成24年 (株)吉本組 札幌支店 技術顧問
現在に至る



小暮 逸郎

生年月 昭和26年6月
北日本港湾コンサルタント(株)

略 歴

昭和45年 北海道開発局
平成21年 小樽開発建設部 小樽港湾事務所長
平成24年 北日本港湾コンサルタント(株) 技術顧問
現在に至る



吉田 義一

生年月 昭和26年12月
村井建設(株)

略 歴

昭和45年 北海道開発局
平成22年 釧路開発建設部 技術管理官
平成23年 村井建設(株)技術顧問
平成24年 常務取締役
現在に至る



渡部 優

生年月 昭和26年1月
(一財)港湾空港総合技術センター

略 歴

昭和44年 北海道開発局
平成19年 函館開発建設部 江差港湾事務所長
平成21年 (財)港湾空港建設技術センター北海道支部
平成25年 北海道支部 事業第一部 部長
現在に至る

(一社) 日本海上起重技術協会推薦



渡辺 修司

生年月 昭和26年11月
 (株)菅原組 札幌支店

略 歴

昭和45年 北海道開発局
 平成20年 稚内開発建設部 技術管理官
 平成22年 (株)菅原組 技術顧問
 現在に至る

平成25年度 日本港湾空港建設協会連合会会長賞表彰

北海道港湾空港建設協会から6氏が受賞

経営の合理化、工費の適正化、技術の向上、作業の効率化、従業員の労務・厚生改善等で協会の発展に尽くした功績を顕著として、平成25年5月8日東京都内の明治記念館で開催された日本港湾空港建設協会連合会第30回通常総会において、当協会から次の6氏が会長表彰を受賞されました。受賞されました皆様には、心からお慶び申し上げます。

(代表者表彰者)



萩原 一利

生年月 昭和26年3月
 萩原建設工業(株) 代表取締役社長

略 歴

昭和51年 萩原建設工業(株) 入社 取締役
 昭和61年 同上 取締役副社長
 平成15年 同上 代表取締役社長 現在に至る



山中 博

生年月 昭和23年11月
 葵建設(株) 代表取締役社長

略 歴

昭和42年 葵建設(株) 入社
 平成16年 同上 専務取締役
 平成17年 同上 代表取締役社長 現在に至る

(従業員表彰者)



青山 康夫

生年月 昭和25年8月
 岩倉建設執行役員土木部
 海洋担当部長兼機材課長

略 歴

昭和48年 岩倉建設(株) 入社
 平成22年 同上 執行役員本店土木部
 海洋担当部長兼機材課長 現在に至る



高橋 聖一

生年月 昭和31年4月
 北興工業(株) 土木部工事長

略 歴

昭和55年 北興工業(株) 入社
 平成5年 同上 土木部主任
 平成15年 同上 土木部工事長 現在に至る



山崎 正宏

生年月 昭和31年5月
 堀松建設工業(株) 執行役員土木部長

略 歴

昭和58年 堀松建設工業(株) 入社
 平成15年 同上 工事部長
 平成25年 同上 執行役員土木部長 現在に至る



岡本 淳敏

生年月 昭和32年9月
 勇建設(株) 取締役工事部長

略 歴

昭和56年 勇建設(株) 入社
 平成22年 同上 工事部長
 平成23年 同上 取締役工事部長 現在に至る

(従業員表彰者続き)



吉田 照雄

生年月 昭和33年 2月
藤建設(株) 本社工務部

略 歴

昭和53年 藤建設(株) 入社
平成59年 同社 現場主任
平成5年 同社 執行役員工務部部長 現在に至る

平成25年度 (一社)日本海上起重技術協会功労者表彰

永年にわたり協会発展のために尽力・精励し特に功績顕著として、(一社)日本海上起重技術協会会長表彰が、平成25年5月9日東京千代田区・平河町にある都市センターホテルで開催された第27回通常総会において行われ、藤建設(株)に勤務される佐々木勝治氏、三協建設(株)に勤務される瀬戸詔隆氏、両名が受賞されました。心からお慶び申し上げます。



佐々木 勝治

生年月 昭和33年10月
藤建設(株)

略 歴

昭和63年 藤建設(株) 入社
平成10年 起重機船ふじFC-18 船長
平成23年 起重機船ふじFC-25 船長

資 格

平成9年 海上起重作業管理技士資格取得
平成21年 海上起重基幹技能者資格取得



瀬戸 詔隆

生年月 昭和27年 2月
三協建設(株)

略 歴

昭和42年 三協建設(株) 入社
平成8年 第31号三協号(80tクレーン付台船) 船団長

資 格

昭和45年 クレーン運転士免許取得
平成8年 海上起重作業管理技士資格取得
平成16年 建設マスター顕彰(建設機械運転工海上工部門)

平成25年度 漁港漁場関係優良請負者表彰受賞者

水産庁の25年度の漁港漁場関係優良請負者表彰で、農林水産大臣賞に道内から(株)西村組(湧別町、西村幸浩社長)が、農林水産大臣表彰に選ばれた。また、水産庁長官賞には、白鳥建設工業(株)(留萌市、堀松誠代表取締役社長)、真壁建設(株)(根室市、山下洋司代表取締役)が、水産事業での功績が認められての受賞となった。受賞されました皆様には、心からお慶び申し上げます。

(農林水産大臣表彰)



(株)西村組 代表取締役社長

西村 幸浩

生年月 昭和38年 9月

略 歴

昭和62年 (株)西村組 入社
平成8年 同上 取締役副社長
平成14年 同上 代表取締役社長 現在に至る

会社概要

本社所在地	紋別郡湧別町
創業	昭和11年
設立	昭和31年
資本金	4500万円
社員数	75名

(水産庁長官表彰)



白鳥建設工業(株) 代表取締役社長

堀松 誠

生年月 昭和34年 3月

略 歴

平成13年 白鳥建設工業(株) 入社
 平成22年 同上 専務取締役
 平成24年 同上 代表取締役社長 現在に至る

会社概要

本社所在地 留萌市
 創業 昭和2年
 設立 昭和39年
 資本金 2000万円
 社員数 25名



真壁建設(株) 代表取締役

山下 洋司

生年月 昭和25年 3月

略 歴

昭和49年 真壁建設(株) 入社
 昭和52年 同上 取締役
 平成2年 同上 代表取締役 現在に至る

会社概要

本社所在地 根室市
 創業 昭和26年
 設立 昭和28年
 資本金 2500万円
 社員数 31名

平成25年度 (一社)日本潜水協会会長表彰

永年にわたり(一社)日本潜水協会並びに潜水業界発展のため多大な貢献をされ、功績顕著として平成25年5月27日浜松町東京會館で行われた第41回定時総会において会長表彰を受賞されました。心からお慶び申し上げます。



福井 弘迪

生年月 昭和45年10月

(有)福井潜水工業(稚内市)

略 歴

平成4年 (有)福井潜水工業 入社
 現在に至る



浅沼 文彦

生年月 昭和43年2月

(株)鈴木工業(上の国町)

略 歴

平成11年 (株)鈴木工業 入社
 現在に至る



多羽田 徹

生年月 昭和41年4月

(株)鈴木工業(上の国町)

略 歴

平成11年 (株)鈴木工業 入社
 現在に至る

我が社の安全衛生管理

(株)高木組 安全環境部長 富樫 英美

1. はじめに

当社は創業明治35年で、110余年の歴史を持つ会社です。

昭和17年に2社による企業合同を果たし、株式会社高木組を設立、今の会社の礎を築いています。

事業内容は、建築・土木構造物の設計施工を主とした総合建設業として支店が札幌にあります。本社のある函館を主として道南一円で事業展開を図っています。

経営理念は「最良の製品を早く、安く、お客様に提協し、合わせて社会に貢献する。」となっています。

2. 本社安全衛生基本方針

当社は安全を最優先に考え、年度毎に「安全衛生基本方針」「安全目標」「安全スローガン」を策定し、全社一丸となり安全衛生活動を展開しています。

平成25年度「安全衛生基本方針」

企業活動の全領域を通じ、一人ひとりが強い責任感と確固たる信念をもって、安全最優先を基本理念としたりスクアセスメント導入の安全衛生活動を展開する。

平成25年度「安全目標」

- ・災害0を目指す
- ・安全衛生計画を達成率70%以上とする

平成25年度「安全スローガン」

『安全は基本動作の“積み重ね” みんなで
目指そう無災害』

以上となっています。

3. 安全衛生管理計画

安全衛生管理体制の強化を図るため、年度毎に重点施策事項、具体的な実施事項等を定め個々の有効性及び目標達成度を検証し、次年度計画に反映させ安全衛生の向上を目指しています。

4. 安全衛生管理活動

①安全大会

毎年4月に全社員と協力会社85余社参加のもと開催しています。



社長訓示（函館ロイヤルホテルにて）

始めに黒田社長の訓辞、中央安全委員長中田専務による安全衛生管理計画の説明後、安全表彰、外部講師（安全管理士）の講話を交えて安全意識の高揚を図っています。



協力会社職長安全表彰



外部講師による安全講話

②本社安全パトロール・本社安全衛生協議会

毎月1回、中央安全衛生委員会メンバーと協力会社安全委員合同による現場パトロールを実施し、現場の安全衛生管理状況を点検。パトロール終了後本社安全衛生協議会を開催して点検結果・是正事項等を確認、その内容を各現場へ外部情報・資料等と共に提供し、管理水準の統一化と向上を目指しています。



本社安全パトロールの実施

③安全及び衛生週間

安全及び衛生週間には、各現場へ社長メッセージ・安全環境部からの本週間活動表と外部安全衛生資料を伝達し、安全面だけではなく作業環境等についても現場支援を行っています。

5. 作業所安全衛生管理活動

各作業所で作成したリスクアセスメント手法を取り入れた工事安全衛生管理計画書を基に、工事特性に合致し

た安全目標と重点項目を掲げ安全衛生活動の強化に努めております。

また、随時新規入場者教育・職長教育をはじめとして、TBM及びRKY活動、安全衛生協議会、安全教育訓練、安全施工サイクル、作業所長による現場巡視等基本的な事項を100%実施、危険0を目指し安全衛生管理活動を展開しています。



RKY活動の実施



安全教育訓練の実施

6. むすびに

これからも、本社、支店、現場、協力会社一丸になり安全衛生基本方針を基に「リスクアセスメント」の実施スキルアップにより、一人ひとりが強い責任感と確固たる信念を持って安全安心な職場環境を整備し、危険0を目指し安全衛生管理活動を粘り強く継続、実行します。

私の趣味

『雑感 ～マック達とのふれあい～』

勇建設(株)

小泉信男

職場にしる自宅にしる、今やパソコンの画面を見ない日はないが、職場で初めて数人で共有するデスクトップ・タイプのワープロ機に触れたのが遡ること約28年前のことである。職場の片隅にそれはあり、限られた時間であったが、緊張して椅子に座り画面と格闘したことを思い出す。

職場で1～2時間触れているだけでは何もわからず、生来の「新しもの好き」であったこともあって、結局自らがワープロ機を購入することとなった。印刷機能がついていることもあって、すぐに自分の考えが活字となりイメージが具現化されるわけである。自由にキーボードに触れ文字変換の操作を行い、美文字の印刷物が完成するたびに妙な高揚感を覚えたものだ。

そんな時代を経過して、職場においてワープロ機から現在当たり前に使われているパソコンに徐々に移行していくことは必然でもあった。「習うより慣れる」ということはワープロ機のとくに経験していたので、我が家に自分用のパソコンを早速購入することとした。その際のキーポイントは、「子ども達を含めた家族全員が楽しむことができるパソコン環境にする」であった。

職場でのパソコンはいわゆるMS-DOS (Windows) 機であり、仕事の効率性に特化していて面白味に欠けていた。パソコン誌での情報収集にワクワクしながらいそしんだ結果、当時マイナーではあったがマルチメディア時代を予感させるMacintosh機を購入することとした。Performa 630というデスクトップ・タイプの入門機である(写真1、参照)。クラリスワークスなど多くのアプリケーションがバンドルされ、キーボード、マウス、モデムなどが付属し、「箱から出したらすぐに使える」が謳い文句であった。今では当たり前になっているが当時は珍しかった絵柄のアイコンをクリックすると、趣味と実益を満

たしそうな世界が画面いっぱい広がった。ワープロ機になかったマウスを使った簡単操作は自分自身の好奇心のみならず家族の注目度も満たした。いわゆるマック・ユーザーの仲間入りである。

それ以降、職場ではWindows、自宅ではMac愛好者となって小遣いがほぼMac/パソコンと関係書籍に消えることとなった。パソコンの世界は技術革新の頻度が高く、1～2年毎にバージョンアップした魅力的な製品が出現し、その都度今買うべきか否かの二者択一に悩むこととなった。

次に飛びついたのがディスプレイ一体型デスクトップ機のシリーズであるiMac (アイマック) (写真2、参照)であり、eMac (イーマック) であった。eMacはiMacと同タイプであるがディスプレイが17インチと大型でコストパフォーマンスが高いのが魅力であった。アップル社の製品はiPhoneの出現など今でも先進的な機能と秀逸なデザインとの融合で注目を浴びているが、当時もメディアがこぞってこの変形五角形の躯体の斬新性を取り上げていたことが思い出される。

その当時、3人の子ども達のうち上の2人が高校生、中学生になっており、古いマック達はお下がり品として彼らの所有となり、それぞれが立派な働き(?) をしてくれた。我が家にテレビゲーム機がないのはそれも一つの理由だ。

更に子供部屋で一人きりで熱中しないように、これら3台とも居間に並べることにした。その結果、居間は自然と皆が集まり、パソコン操作の疑問点や各自の取り組む物の違いなどが共有される楽しい空間となった。そして、我が家のマック達のトラブル・メンテナンスは自分の役割となった。日常ちょっと気になることを検索機能を使って調べ一定の回答が得られる利便性は、「分からないことがあ

れば直接マックに訊け」となった。

気づくのが遅かったが、実はこれらのマック達に一番長く自由に触れることが出来たのが、主婦である妻であった。長男が大学生時代にホームページ作成に興味を持ち、参考書と取り組んでいたのを横で見聞きしながら、彼女自身のホームページを立ち上げてしまったときはさすがに驚いた。「習うより慣れる」の実践者であったわけで、バンドルされたアプリケーションなどを隠せずに操作し自分のものにしていった。その当時は究極とも言われた27インチの大型ディスプレイが付属したiMac（通称：Intel Mac）を購入（写真3、参照）したが、帰宅したらワイドな画面にアプリを幾つも立ち上げ操作、格闘する妻の姿を見かけることもしばしばであった。パソコンのハードウェアに関心のある自分と違い、ソフトウェアの利用に興味を抱き、マニュアルを熟読せず、我流でどんどん触れていくスタイルはちょっと真似の出来ないところである。

さて子ども達がそれぞれ独立した現在、我が家のパソコンも世代交代を続け、子供部屋を改装して造った（通称）パソコン部屋が設置場所となった。また、今やパソコンは特別なものではなく、WindowsもMacも我々のレベルでは十分すぎるほどの機能と能力を持ち合わせていることに気づき、上記Intel Mac以降のマック達とは疎遠になってしまった。

平たく言えば、通販や量販店でMacよりも格安に購入できるWindowsに関心が移ってしまったということである。我が家の現在常用の2台のデスクトップ・パソコンのOSはWindows VistaとWindows 7であり、両方ともリーズナブルな価格での購入となった。

我が家のマック達のレビューはこれで終わりである、と書こうとして気づいたが、毎日触れているスマートフォン（iPhone）のことを思い出した。これも立派なマック達である。

今では、GPS（地図）機能やインターネット機能など

身近に持っていて損のない代物と分かるが、発売当時は果たして自分が使いこなせるか否かで購入をためらっていた。ところが妻もスマートフォンに関心があったようで「一緒に持つとお互い叱咤激励できるよ」の一言がきっかけで、2年前に携帯端末をauからSoftBankへ移行した。末娘が既にiPhoneを使っているその使い勝手を訊けたことも後押しした。

更にはiPhoneに徐々に慣れてきたこともあって、昨年にはより大きな画面で画像やゲームなどが楽しめるタブレットと呼ばれるiPad（妻はiPad mini）を購入した。我が家では無線LANでネットワーク化しており、そのWi-Fi機能を使えることが一つの理由であったが、長男夫婦を訪ねた際にiPadが目にとまりその利便性を事前にレクチャーされていたこともあった。

ノートパソコンより軽くて安価なタブレットは、その機能が限定こそされてはいるが指先で簡単に操作できるなど驚きの使い易さであり、我々が触れるにはちょうど良いパソコンであることが実感できる。今では、夕食後にソファでテレビを見ながらiPadでアップトゥデイトのニュースに触れたり、通販ショップや旅行プランなど興味や話題性のある情報を夫婦で共有しあっている。特に孫を含む家族を撮った写真などは、気軽に自慢げに見せ合え、その便利さに満足している。

以上振り返ってみると、我が家のマック達とのふれあいの歴史は、そのまま家族の歴史にもなっていることに気づく。自分のマック好きがこんな影響を与えるとは思っていなかったが、その結果、夫婦で叱咤激励・切磋琢磨するという習慣がついたのは、これから老境を迎える身にとって良いおまけなのかもしれない。そして他のパソコンより常に一歩先をいくマック達との付き合いは、これからも続いていきそうである。



(写真1) Performa 630



(写真2) 初代のiMac G3



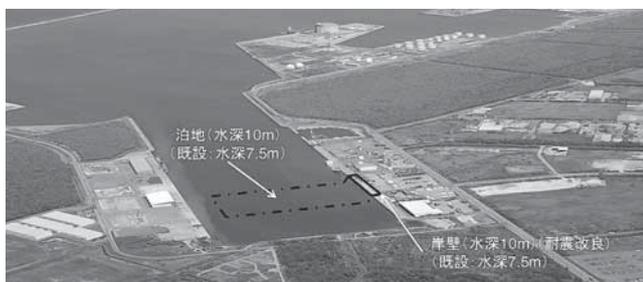
(写真3) Intel Mac

イベント

石狩湾新港耐震強化岸壁供用式を開催

石狩市の石狩湾新港で、道内での大地震発生時に緊急物資の輸送ルートを確認するための耐震強化岸壁が完成し、6月29日、現地で供用式が開かれた。

道央圏の日本海側では初の耐震強化岸壁で、同港の花畔ふ頭760mのうち170mを改良した。花畔ふ頭は同港4カ所のふ頭のうち、国道337号に最も近い。水深を従来の7.5mから10mにまで浚渫し、大型船に対応した。また、



耐震強化岸壁箇所図 (小樽港湾事務所提供)

ふ頭内部の奥行き25m、深さ18mにモルタルを注入するなどし、耐震性を高めた。

小樽開建による整備事業で、2006年度に始まり、今年5月に完成した。総事業費は39億円。

供用式には関係者100人が出席。同開建の福本淳部長は「道央圏における災害時の緊急物資の輸送が確保され、迅速な復旧が可能になった」とあいさつした。

(記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました)



供用式 (小樽港湾事務所提供)

羽幌港中央ふ頭供用開始・新フェリーターミナル竣工式典を開催

留萌開建と羽幌町は4月14日、羽幌港中央ふ頭の供用開始と新フェリーターミナルの竣工を記念した式典を開き、関係者約60人のほか町民が集り、テープカットなどで祝った。

留萌開建が2001年に着工した羽幌港中央ふ頭は、震災時の緊急物資輸送を目的に耐震岸壁などを整備。離島間フェリー「おろろん2」が利用する延長87mの-5m耐震強化岸壁や新造船の高速フェリー「さんらいなあ2」が利用する延長80mの-5m岸壁に加え、平時は駐車場、緊急時は物資仮置き場として利用する9200㎡の南港湾施設用地、ふ頭へアクセスする延長285mの南道路からなる。

新フェリーターミナルは、築後40年以上となる旧施設の老朽化に伴い、中央ふ頭供用開始に合わせて羽幌町が移転改築した。内外装に道産木材を利用したW造、平屋一部2階、延べ482㎡のターミナル棟と、S造、平屋、延べ308㎡の保管庫棟を渡り廊下で結んでいる。事業費

に2億2800万円を投じた。

式典では、舟橋泰博羽幌町長が「隣接する北るもい漁業協同組合の新水産物



関係者らがテープカットし、完成を祝った

荷さばき施設・事務所と合わせて、地域活性化の拠点にしたい」と抱負を述べ、許士裕恭留萌開建部長が「中央ふ頭の完成で震災に強い離島航路が確保され、観光、産業の発展にもつながるだろう」と期待した。

その後、新フェリーターミナルの耐震強化岸壁側で、関係者や地元住民らが見守る中、舟橋町長、山中義之国土交通省道局大臣官房審議官、江野英嗣羽幌沿海フェリー社長らによるテープカットや、羽幌港完成記念のモニュメントを除幕し、施設完成を祝った。

(記事・写真は北海道建設新聞から抜粋して掲載しました)

苫小牧港開港50周年シンポジウムを開催

苫小牧港開港50周年記念式典（実行委員会主催）が7月16日、苫小牧市内のグランドホテルニュー王子で開かれ、港湾関係者ら215人が半世紀の節目を祝った。

冒頭、岩倉博文市長が「港の歴史を築いた先人のご苦労に感謝するとともに、世界に羽ばたく新しい港造りにまい進し、国際社会に貢献していきます」とあいさつし、港の発展に貢献した22団体と11個人に感謝状を贈った。

続いて来賓を代表し、国土交通省の梶山弘志副大臣が「わが国の食糧基地である北海道への期待は大きい。苫小牧港の（1次産品の）輸出拠点としての重要性は今後さらに高まる」と祝辞を述べた。

その後、祝賀会が開かれ、苫小牧東小ブラスバンド同好会が記念演奏を披露するなどした。



記念式典

（記事・写真は北海道新聞から抜粋して掲載しました）

苫小牧港で「Sea級グルメ全国大会 in 苫小牧」を開催

苫小牧港開港50周年記念事業のメインイベントで、海産物を使ったアイデア料理が楽しめる「第3回みなとオアシスSea級グルメ全国大会 in 苫小牧」が7月13・14日の両日、苫小牧港西港区の北埠頭キラキラ公園で開催した。2日間で約5万人（主催者発表）が来場した。

全国16か所のみなとまちが集まり、各港の代表者が自慢のメニューを販売した大会は完売が相次ぐほど盛況。来場者による人気投票の結果、愛媛・八幡浜港の「じゃこカツ」が優勝、2日間で2,200人分を完売した苫小牧

港の「ホッキモー」は2位だった。

北海道からコンテストには苫小牧港のほか、稚内港から「宗谷の塩ラーメン」、網走港から「クジラ串カツ」、室蘭港から「クロソイ汁」と「生ダコのかき揚げ」、函館港から「いかめし」が、また、応援出展（投票対象外）として釧路港から「ザンギ・ザンタレ」、苫小牧港から「ほっきめし」・「ホッキカレー」等も出店し、いずれも長蛇の列ができるほどの人気であった。

（記事は苫小牧民報から抜粋引用しました）



多くの家族でにぎわうグルメ会場

追直漁港沖合人工島(Mランド) 供用式典を開催

室蘭市舟見町おいなおしの追直漁港で国が1996年から整備してきた漁業用人工島「Mランド」が完成し、4月24日利用が始まった。屋根付き選別場を備え、養殖ホタテなどを太陽光や風雨から守れるため、漁獲物の付加価値向上が期待されている。

同漁港と橋で結ばれた沖合260mに浮かぶMランドは2階建てで延べ約1万6千㎡。総工事費は182億円。1階部分には11の作業スペースがあり、ホタテの選別や毛ガニ、ウニの一時保管を行う。開発局によると、人工島方式の漁業施設は、道内では渡島管内長万部町の国縫漁港に次いで2例目となる。

人工島から延びる防波堤によって波の穏やかな「静穏域」が生まれ、養殖クロソイなどの生存率が高まる利点も見込まれる。室蘭漁協や室蘭市は栽培漁業の拠点とし



Mランド供用開始式

て活用する。

Mランドで24日、開かれた式典では関係者200人が完成を祝った。同漁協の室村吉信組合長は「ウニやワカメの養殖にも挑戦したい」と意気込みを語った。

1階部分は漁業者専用。50台分の駐車場がある2階は7月13日に市民向け完成記念イベントが行われ、一般市民も自由に立ち入りできるようになる。

(記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました)

追直漁港ふれあいまつりを開催

室蘭市追直漁港の沖合人工島「Mランド」が7月13日、開放された。初日は完成記念イベント「追直漁港ふれあいまつり」があった。室蘭の最高気温25.2度、真っ青な空、海に囲まれた会場には家族連れが訪れ大賑わい。漁港の「新たな顔」の完成を祝い親しんだ。

同イベント実行委員会主催、室蘭追直地域マリビジョン協議会、西いぶり食の魅力向上研究会が共催。オープニングセレモニーで、室蘭漁業協同組合の室村吉信組

合長、青山剛室蘭市長が挨拶、テープカットして幕を開けた。

Mランド2階部分には屋台が開店。地元バンドによるステージショーで大盛り上がり。同1階のフードコーナーには地元産の海鮮が盛りだくさんの「追直海鮮丼」に来場者が殺到。販売開始の午前11時前から長蛇の列ができていた。

(記事は室蘭民報から抜粋して掲載しました)



多くの家族連れでにぎわうMランドの会場

大型客船等寄港

大型豪華客船 「コスタ・ビクトリア」函館港に初寄港

コスタクルーズ社（イタリア）の豪華客船「コスタ・ビクトリア」（7万5166トン）が5月18日、函館港に初寄港した。真っ白な船体と黄色の大きな煙突が特徴の船で、函館入港実績のある客船では過去最大。同日夕まで滞在し、乗客約2,000人が市内近郊の観光を楽しんだ。

同船の全長は60階建てのビルに相当する253メートル、全幅32メートル。日本一周クルーズの最中で、乗客のほとんどは日本人。11日に横浜を出港し、韓国・釜山、石川県金沢などを回り、函館港の次は仙台に向かった。

（記事は函館新聞から抜粋して掲載しました）



（港町埠頭に接岸した「コスタ・ビクトリア」）

海王丸、苫小牧港に15年ぶり寄港

7月12日、世界最大級の帆船「海王丸」（2,556トン）が苫小牧港西港区北埠頭に接岸した。



（北埠頭に接岸した「海王丸」）

海王丸は独立法人・航海訓練所（横浜）の練習船。全長110m、全幅13.8m、海面からのマストの高さは約50m

で、白い優雅な船体から「白い貴婦人」と形容される。

小樽など全国に4つある国立海上技術学校の実習生90人を含む147人を乗せ、東京を7月2日に出港し、海上での訓練を重ねてきた。

岸壁では、苫小牧西高吹奏楽部が歓迎の演奏を披露し、市民は手を振って入港を祝った。

続いて、記念事業実行委員会が歓迎式典を実施。岩倉博文苫小牧市長が新田邦繁船長に記念の盾、市の観光親善大使「ハスカップレディ」が実習生に花束を贈るなどした。

（記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました）

釧路港へ7万トン級客船初入港

釧路港を訪れた客船の中で最大の「サン・プリンセス」(7万7441トン・旅客定員1990人)が6月16日(日)寄港し、虻名釧路市長ら関係団体代表が同船を訪れ、初入港のセレモニーを行った。

同船の運航会社で日本のクルーズ市場の開拓に乗り出したプリンセス・クルーズ(米国)はすでに来年、同船を上回る大型の「ダイヤモンド・プリンセス」(11万6000トン)を含め2隻で20回もの釧路港寄港を打ち出している。

今回も市民と旅行者ら180人を船内見学に招き、クルーズの魅力アピールした。

初寄港したサン・プリンセスは釧路川河口の耐震・旅客船ターミナルに接岸することができたが、来年寄港するダイヤモンド・プリンセスは大型のため水深がある西港第4埠頭に入る。さらに安全確保のため港湾管理者は動画のシミュレーションを作成する。

(記事は釧路新聞から抜粋して掲載しました)



釧路港耐震・旅客船ターミナル接岸したサン・プリンセス号
(釧路開発建設部提供)



各港で舟漕ぎ大会や ボートレースが開催される

第9回釧路港舟漕ぎ大会

8月3日、国際バルク戦略港湾着工促進大会と銘打った釧路港舟漕ぎ大会には、一般の部55チームと女性の部24チームが出場。それぞれの舟に8人が乗り込み、往復200メートルのコースでタイムを競った。

一般の部は第伍富丸、ラビッツ、天寧とんび1号、第15富丸、燦々会による決勝で、“兄弟船”の富丸同士が並ぶようにゴールへとなだれ込み、写真判定の結果同着

の優勝という大会初の結果となった。

漕ぎまくり隊、ちーむまんもす、J&H3、釧路町QSしゃもじーS、スナックドリーミーによる決勝となった女性の部は、敗者復活戦から這い上がったドリーミーが後半に逆転し、最後は釧路町の追い上げを振り切って3連覇を成し遂げた。

(記事は釧路新聞から抜粋して掲載しました)



白熱したレースを展開する参加者

苫小牧港ハスカップボートレース

8月3日、苫小牧港西港区北埠頭のキラキラ公園で開かれた「苫小牧港ハスカップボートレース」には、市内の企業など35チームが参加。5人1組でゴムボートに乗った参加者は、タイムを競う予選に続き、本戦のトーナメントでも熱戦を展開。岸壁からの応援を背に、オールを操っていた。



函館港ペリーボート競漕

8人乗りの手こぎボートでスピードを競う「函館ペリーボート競漕」が8月4日、函館市大手町の函館港で行われた。

幕末、箱館奉行が小舟でペリー艦隊に向かった史実にちなんだレース。ボートに6人のこぎ手とかじ取り、ドラ担当が乗り込み、折り返しのある150mのコースで競った。

5回目の今年は、一般の部（男女混合可）42チーム、女子の部14チームが出場。尼さんなど仮装姿のチームも目立ち、会場を沸かせた。

（記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました）



むろらん港鉄人舟漕ぎ大会

第2回むろらん港鉄人舟漕ぎ大会が7月14日、室蘭港中央埠頭前の海域で開かれた。

職場の仲間などで作る34チームが「鉄人」の称号獲得を目指し、力の限りにオールを漕ぐ参加選手の熱気に包まれていた。

レースは漁船を改造したボートに8人が乗り込み、オールを漕いで全長150mのコースを往復しタイムを競った。出艇は1レース3隻ずつ。予選はタイムトライアル、準決勝と決勝はトーナメントで実施した。

（記事は室蘭民報から抜粋して掲載しました）



稚内副港ボートレース

稚内副港ボートレースは8月4日、第1副港で開き、出場の36チーム400人が、直線折返し160mのコースで力強いオールさばきを競い、この結果、「中央小&稚中ティーチャー&おやじいー」が初優勝を飾った。

1レースはおよそ1～2分。予選では、真っ直ぐ進んでいるつもりが、いつの間にか舳先があらぬ方向に向

く「笑いあり」の展開も見られ、岸壁に陣取った観客からも盛んな声援が寄せられた。

一方、セミファイナルからは手に汗握る真剣勝負。3チームが進出した決勝では、息の合ったかけ声と、1秒を争う互角のレース展開で白熱した。

(記事は日刊宗谷から抜粋して掲載しました)



Information

◎業界だより◎

◎会員代表者の交代

●株式会社山田組

代表取締役社長 山田健一郎 平成25年8月

◎広報委員会だより◎

平成25年9月現在の広報委員は次表のとおりです。

今後ともよろしくお願ひします。

委員長	佐見 誠	東亜建設工業(株)
副委員長	白川 隆司	東洋建設(株)
委員(部会長)	小山 良明	白鳥建設工業(株)
(副部会長)	志賀 保	五洋建設(株)
(副部会長)	東 志郎	萩原建設工業(株)
	大西 治朗	菱中建設(株)
	櫻庭 榮	(株)中田組
	荒井 直人	東亜建設工業(株)
	毛利 照男	釧石工業(株)
	渡辺 修司	(株)菅原組



漁業用人工島「Mランド」

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.80

発行年月 平成25年9月
発行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹
札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)
TEL (011) 707-4731 FAX (011) 707-4733
<http://www.hokkaido-kkk.jp>
Email: hkkk@h4.dion.ne.jp
編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会
編集責任者 小山 良明
印刷 須田製版